

「子育て家族にやさしい旅行」取組のすすめ

観光庁が行った乳幼児連れ・妊産婦旅行促進のための調査・検討の結果、子育て家族・観光関連事業者双方のための旅行促進策をまとめました。

乳幼児連れ・妊産婦旅行促進の意義

・平日の客室稼働率に貢献

乳幼児連れ旅行が主に実施される時期は、就学前ということもあり、旅行代金・宿泊料金、乗り物運賃が安価なオフ期や平日が比較的多くなっています。これは、宿泊業、観光業、旅行業などの事業者にとって、オフ期の需要拡大や平日の客室稼働率アップによる需要の平準化につながります。

・旅行市場全体の縮小抑止

乳幼児連れのファミリー旅行やママ友旅行、三世代旅行の促進は、人口減少による旅行市場全体の縮小抑止にも繋がり、旅行業への貢献が期待できます。

・母親のレスパイトに*

母親にとっては、女性の子育て期におけるワークライフバランスの実現による社会参加と活躍促進や、少子化の改善策の観点においても、乳幼児連れの旅行促進は有意義です。

・次世代の旅行好きを育成

幼少期を含め旅行経験のある子どもは将来旅行を習慣的に行う可能性が高く、将来の旅行者を育成できるというメリットがあります。

属性	促進策	
0歳児	復職前の「育休旅行」	復職前に旅行するチャンス
1～2歳児	航空国内線の「無料期間旅行」	航空国内線では3歳から有料
3～6歳児	「就学前旅行」	就学後はスケジュール調整が難しくなる
妊婦さん	子連れになる前の「最後の二人旅行」 「上の子との最後のひとりっこ旅行」	再び大人同士の旅行ができるのは10数年後 上の子にとってはママを独り占めできる最後の機会
産婦さん	「レスパイト旅行」*	母親のリフレッシュは子どもにとっても重要

*レスパイトとは一時的中断・休息のこと。レスパイトケアとは、乳幼児や障がい児・者、高齢者などを在宅でケアしている家族を癒やすため、一時的にケアを代替し、リフレッシュを図ってもらう家族支援サービスをいいます。レスパイト旅行とは、日々の生活を一時的中断し、休息したり、息抜きをするための旅行です。

みんなの声

● ママ・パパの声

- ・さまざまなサービスを活用すればもっと行ける！
- ・どんなサービスがあるのかももっと知りたい！
- ・旅先に何があって何がないのかがわかると準備も楽！
- ・観光地や宿泊先では、歓迎の気持ちを示してもらうだけでもうれしい！

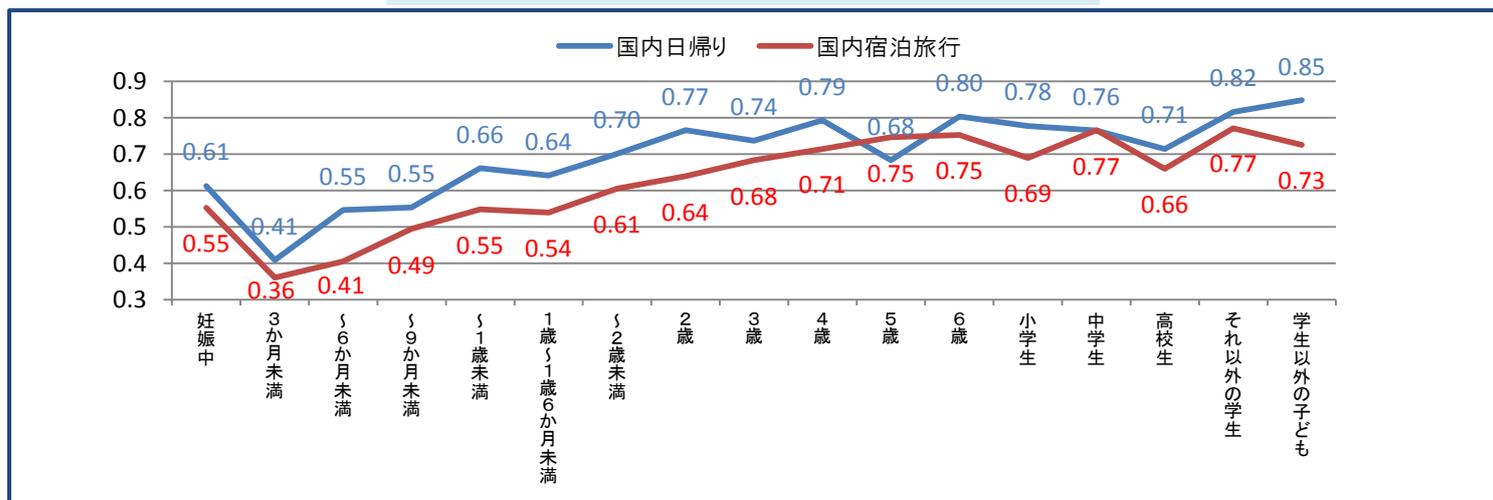
● 小児科医からのアドバイス

- ・体調やタイミングに注意さえすれば旅行にも行けます。



妊娠・出産後、旅行頻度は激減します。人口減少で市場減少のなか、6か月～1歳半の旅行促進はリピーター獲得、将来の優良顧客の創造に重要です。

妊娠前に比べた妊娠後の旅行頻度※



※妊娠前の旅行頻度を1としたときの妊娠出産後のママ・パパの旅行頻度指数(一番下の子どもの年齢別に算出)

対象者	対象者のメリット	必要な対応策
消費者	<ul style="list-style-type: none"> ・ママの元気・リフレッシュ ・家族の絆づくり ・体験、思い出づくり ・子どもへの体験教育 ・人格形成への一助 	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行が負担にならないための協力・支援 (夫の協力、荷物軽減策など) ・観光地、観光関連業の受入態勢づくり ・観光関連業からできること、できないことの情報発信
地域・観光事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・客室稼働の平準化 ・三世代旅行促進による客単価拡大 ・集客力向上 ・旅行リピーターの育成及び獲得 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での観光業、自治体等の受入態勢の整備 ・観光・旅行関連機関の連携 ・受入態勢の発信と地域での配慮情報提供 ・できることは小さなことからでもスタート ・投資が必要なハード設備を整備しなくても、歓迎の気持ちを示すだけでも消費者はうれしい
旅行業	<ul style="list-style-type: none"> ・先細りの旅行市場の新規顧客の開拓 ・平日送客による平日客室稼働平準化 ・三世代旅行促進による客単価拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊事業者、観光事業者等、交通事業者のハブとなり、顧客の心理的バリアを解消する ・乳幼児連れや妊産婦受入の姿勢を具体的にみせる (背伸びせず、できることの情報提供を)
行政など	<ul style="list-style-type: none"> ・観光入込数、交流人口の増加 ・地域活性化の促進 ・経済波及効果 ・健康寿命の延長、医療費財政問題等社会課題解決への貢献 	<ul style="list-style-type: none"> ・促進の意義とメリット、消費者や事業者向けのガイドラインや注意事項などの情報提供、啓発等